

Title: 「シノゴのオンナ」



小林 真純
人前に出るのは大の
苦手です。もちろん
写真に撮られるのも。
顔つきつっていい
ませんか？

● 最近のエントリー

Do you have the God?
(2010.09.04)

● アーカイブ

2011年02月
2010年11月
2010年10月
2010年09月
2010年08月
2010年07月
2010年06月
2010年05月
2010年04月
2010年03月

● 投稿カレンダー

● カテゴリー一覧

● ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE

OLYMPUS
Your Vision, Our Future



「シノゴのオンナ」 > 2010年09月 アーカイブ

10.09.04

Do you have the God?

Tweet

いいね! 0

チェック



ベトナムでの撮影が終了しました。多分 今までで一番長くてあつという間の1週間だった。
今はノイ。おそらくインドの次くらいに休養という言葉の似つかわしくないこの町で一日だけ
休んだら、FW最後の撮影国、中国へ向かいます。

(あー、この後 ほんとは誰にも読まれたくない...)

後半のスクーリングを迎えるにあたり、そこにいたのは5年に亘るFW史上、ぶちぎりでワースト1なんじゃないかという自分と写真でした。

原因は、自分という人格の根本に根ざしていました。22年という間、ずっとそれを感じていながら、自分の目からも見えないようにきれいに隠して顔を背け続けてきたもの。

出発前にその気配が浮かんで、でもFW中にどうにかなるだろうと期待して 文字通り日本を飛び出して、全然どうにもならなくて 写真も撮れなくて、マレーシアでは それのせいで大本からズレている自分の写真の意図を、どうにか理解しようとしてくれた人達に色んな言葉を貰って、後半に出て 前よりはカメラを構えてレリーズを押したものの やっぱり撮れなくて/撮らなくて、中国辺りで頭の中は完全にぐちゃぐちゃになって、再びマレーシアで自分の写真をスキャンしたら それらが逃げようもなく眼前に立ち塞がって、

自分も写真も本当にどうしようもなく、一人で泣いた。

ブログでもずっと見栄を張って、言うだけなら簡単と形だけ整えて格好付けたことばかり言っ
て、励ましや応援のコメントを下された方々に大変に申し訳ない。

まるまる2年間学校にいて、つまり730日間、1万と7520時間も同じ顔ぶれと過ごして、相手が腹を割ってくれても自分は割れなかった。
自分の中にあるものを先生方にすら正直に話せずにごこまで来た。22年間のツケが一気に回ってきた。

絶対に組み上がらないパズルのピース。
それが、8月11日、講師陣の来馬前夜に、自分の写真を並べたときに見えたものだった。

組み合わせが解らないんじゃない、そもそも一枚の絵ではないパズル。

それでも、それでも、自分でも呆れて笑ってしまうくらいに、未だ隠して取り繕って話せない

でいた。個人面談でも、全体講評でも。
もしかしたらスクーリング最後の四者面談でも、言えなかったかもしれない。
面談の場所があつた施設だったなら。

施設の近くにある小さなカフェの、店の前の小さな丸テーブルを大きな3人と小さな1人で囲んで、
さんざんぐずった拳げ拳に結局先生に暴いてもらった。
泣きながらつかえつかえにしか喋れない自分の話を聞いてくれて。

(こんなことを自分が言うのは失礼な話ですが；)
- 内心どう思っていたのかは分からないけれど。(どう思われても仕方ないけど)
- 6期生以降にネタにされるかも(もうされてるかも)しれないけど。
(良い悪例? 反面教師? 人のふり見て我がふり直せ?)

鈴木先生、飯塚先生、長坂先生、
ほんとうにほんとうに、ありがとうございました。

それから、自分の写真を一緒に考えてくれた富田先生と斉藤先生と、
不規則な時間に写真について話した何人かの同期生。(みんな、ごめん)

これを書いて良いのか実は悩む所だけど、こうして書かないとまた性懲りもなく隠しそうな
ので書きました。
FW前半どころじゃなく、6ヶ月間まるまるを費やしてもまだ逃げたい自分がいる。でももうこ
れ以上逃げたくないと思うのも本当。

今までのFW生たちは、それぞれ方向は違ってもぎっと着実に前に進んでいて、
同期生の中にももうずっと先まで進んでしまったヤツだっている。その隔たりは大きい。自分
はやっと、"本当に"土俵に立とうというところだから。

せめて出発直前にも、いや、前半のスクーリング時にでもいいからこのことにちゃんと向き
合えていたら...
もっと色んなことが、もうちょっとはマシだったかも知れない。あれがああだったら、それが
こうだったら...、数え上げればきりが無い。だけど"後悔"という言葉だけは使いたくない。こ
の半年間に見たもの、経験したこと、感じたこと考えたこと、それらは、人にもどう思われよう
が言われようが馬鹿にされようが、絶対 何一つ無駄ではなかったはずだから。

...うん、未だかなり格好付けているけど、これはもう仕方がないってことで。
22年間、無意識に続けてきた習慣(もはや習性?)は簡単には治せません。

日本に帰ったら、色々な人に色々なアクションをされるだろう。これだけの時間と、これだ
けのお金と、そしてたくさんさんの援助をもらって私がしてきたことを見て。
そしてその度に、決して消えない苦い想いを抱くだろう。でも、きっと、それは大事なことな
んだと思う。
そういうものを抱えながら やっていくことが。

向き合うことすら自分だけでは出来なかった。
これから何かある度に、目の前に立ちはだかるそれを見据えて打ち倒していかなければならな
いというのはどれだけの困難なのか。(ぶっちゃけ逃げたい思考を抑え付けるだけで手一杯で
す；)

フリー期間のベトナムでの撮影は、自分のズレを見直した上でやれた。結果はどうか分からな
いし、常に不安はあるけれど、以前とは違う意味で、撮り足りない(もっと撮れるはず/もっと
撮り方があるはず/もっと撮りたい)と思えるようになった。(最初からある時間的な制約を
抜きにしても)
次は、中国。

過ぎたことは変えようがないし、起きたことは(隠せても)なかったことにはならないから、
とりあえずここから始めたいと思う。
自分から逃げないこと。

フリー期間を精一杯。

2010,9,2 小林 真純

カテゴリ:

post by 小林 真純 | 日時: 2010.09.04 | [バナーリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)